

科目担当者氏名 (ふりがな) まつだもとじ 松田素二		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
連絡責任者氏名 (ふりがな) まつだもとじ 松田素二		科目設置機関名 京都大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会学実習Ⅱ	KYTa-080702-0	40	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：三重県熊野市、御浜町などでの調査実習も10年目を迎え、それに関西学院大学が参加して5年目にあたる。学生総勢約51名を8つの班にわけ、各班1、2名の大学院生チューターがサポートする。基本的にはプランニングから報告書の作成まではほぼ学生のみで運営されている。他大学との合同実習というスタイルをとっていることで、調査の組み立てから報告書の作成まで、つねに細かいコミュニケーションが要請され、学生の調査マネジメント能力を大きく伸ばしている実感される。同じ地域で実習が継続できるのは、現地のサポーターとともに、実習を経験したOB学生と現地サポーターとの交流などもそれをバックアップして

1. 調査のテーマ/領域：地域にまなぶー中山間地の100年の変化ー（コミュニティと人々のつながり、地場産業とまちづくり、世界遺産登録の功罪、観光と生活保全、林業の変化と新しい動き、漁業の変化と新しい動き）。2005年度より2008年度まで継続のテーマ。

2. 調査の内容/概要：おもに各集落で暮らす人びとのライフヒストリーから各集落の100年の暮らしの変化を明らかにする。それを通して過疎農山漁村（中山間地）の抱え持ってきた/もつ問題と問題間の連関を抽出し、それらの問題の解決に向けての方法を検討する。

3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：これまで8年間、熊野市、尾鷲市、御浜町などを中心に毎年6から8集落を選定し（およそ2年程度同じ集落で継続）、集落内の5～8家族の3世代を対象にして調査をおこなっている。本年度は調査地を熊野市4集落、御浜町4集落として、基本的な方法は踏襲した。パネル調査的要素も加味している。そのほか

4. 主な調査項目：個人のライフヒストリーを中心に、集落基本データ（農業センサス集落カードほか）、集落のヒストリー（古文書、ライフヒストリー、市史、県史、その他文献）、集落機能の地理的分布、集落組織、年中行事、生活暦、農事暦など。これらも継続的に調査してきたものである。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：主にインタビュー調査と文書、統計などの収集。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：・実施時期：6月29日-30日（予備調査・各班1-2名）・9月20日-22日（本調査・全員）・11月30日-12月1日（補充調査・各班1-2名）、その他学生の班毎に個別調査を実施。・調査地：三重県熊野市、御浜町・調査員の数：70名程度（関西学院大学との合同実習、内チューター17名）

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：じっくりと長時間をかけて聞き取りをおこなうことを目指しており、全員参加および各班の代表でおこなう予備調査、本調査、補充調査のほか、各班（本年度は8班）の判断で班別調査もおこなっており、聞き取り、史料・資料調査の量・質

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：これまでに蓄積されてきた報告書の分析方法と項目とを継承しながら、100年の変化を的確に押さえるための歴史社会的研究の研究史やライフヒストリー理論などの文献研究を行う。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：この4年間、日本近代における過疎中山間地の変容過程をそこに住む者の視点で再検討することがおこなった目的であるが、実習生にとって、個々の人々、集落の生活の実践の詳細な聞き取りによってえられる知見と、おこなった近代化論の枠組みとのギャップを実感できることはおこなった成果であろう。地域における、個人の人生と地域の出来事がクロスするポイントの発見、それぞれの対応の違いなどの発見が、毎年の実習生に繰り返され、それらが報告書によって次年度の実習生へと伝承されつつ新たな発見へとつながっていくこと、またそれらが現地に伝えられていくことでえられる喜びもまた、毎年のものである。

10. 報告書刊行の予定と概要：2009年5月刊行予定（毎年、補充調査終了後に各班があつまり、報告書作成に向けての会議を行う。12月末には各班から選ばれた編集委員を通して、チューターに原稿が送られ、チューターと執筆者のやりとりによって原稿が完成する）。報告書のタイトルは『地域にまなぶー三重県熊野地域100年ー』（仮）。概要はコミュニティと人々のつながり、地場産業とまちづくり、世界遺産登録の功罪、観光と生活保全、林業の変化と新しい動き、漁業の変化と新しい動きなどを各集落別に各班がまとめることになる。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*/)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的に記入下さい。但し、1枚の用紙に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて1行の高さを調整していただくだけで構いません。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をWEB化することも検討しています。ご承知下さい。ご記入下さい。